

# 活動実績・活動報告

私たち「ひとりぼっちにさせへんプロジェクト」は、若者の孤立や困難に寄り添い、“信頼できる大人”との出会いを通じて、人生を立て直すきっかけを届けることを目的に活動しています。本資料では、私たちの主な取り組みと、今年7月から展開する「ミライメタ学園」の構想についてご紹介いたします。

## ◆ 支援対象と実施内容

- ・大阪・道頓堀（通称グリ下）を中心に、繁華街で孤立している若者を対象に、定期的な夜回り活動を実施。
- ・年間100名以上の若者と個別に対話し、その中でも数十名とは継続的な関係性を構築。
- ・不登校、家出、依存症、家庭内暴力、貧困、発達障害など、多様な背景を持つ若者に対し、柔軟で個別的な対応を行っている。

## ◆ 安心できる「居場所」の提供

- ・繁華街での声かけをきっかけに、信頼関係を築いた若者には、カフェや飲食店などを活用した「安心できる空間」へと誘導。
- ・必要に応じて、一時的な居住支援や生活相談なども行い、「帰る場所がない」「話せる人がいない」といった状況への受け皿として機能。
- ・若者の自己決定を尊重しながら、孤立から脱する“第一歩”となる関係性づくりを重視。

## ◆ 今後の展開と課題意識

- ・支援を必要としている若者の中には、「制度の外側」にいるがゆえに、既存の支援の入り口にすらたどり着けないケースが多く存在する。
- ・現場での活動を通じて、もっと気軽に、もっと自由に関われる“新たな入り口”の必要性を痛感している。
- ・そこで、次なる取り組みとして構想しているのが、メタバースを活用した居場所・教育支援「ミライメタ学園」である。

この続きは裏面をご覧ください

# ミライメタ学園

## 1. ミライメタ学園とは

道頓堀（グリ下）やトー横と呼ばれる繁華街で出会った若者たちと関わる中で、私たちはある確信を得ました。それは、必要なのは単なる支援ではなく、心から安心できる「居場所」や「信頼できる大人」との出会いだということです。

学校でも家庭でもない、でも確かに“つながれる場所”を――。その思いから、私たちは仮想空間上に新しい居場所をつくることに挑戦しています。

## 2. 構想と仕組み

メタバースプラットフォーム「cluster」上に、誰でも出入りできる“グリ下”と“教室”を設置します。教室では、イラスト・動画編集・ゲーム制作などのスキル学習が可能で、相談所スペースも併設。運営スタッフが日々の見守りを通じて信頼関係を築き、若者たちの「やってみたい」を後押ししていきます。

## 3. 支援対象と社会課題

支援の対象は、家庭・学校・福祉のどこにもつながっていない“制度の外側”にいる若者たちです。既存の支援の“入り口”にさえたどり着けない彼らにとって、匿名・自由・参加のハードルが低い「入り口」が必要です。ミライメタ学園は、そのきっかけとなることを目指しています。

## 4. 実施と運営体制

2025年6月中の公開を予定。TikTokやメタ広告を通じて情報発信を行い、初年度で1万人の参加を目指します。基本運営は10名以内を想定しつつ、共感する人であれば教室の“開設者”としても参加可能な、柔軟な体制を整備します。

## 5. 今後の展望

1年後には自社サーバーでの運用を開始し、土地やスキン販売などによる独自のメタ経済圏を形成。関わる楽しさを感じられる仕組みを重視しながら、行政や企業との連携も視野に入れ、持続可能な支援モデルを構築していきます。

## 6. 職業体験と育成型プロジェクト

教室では動画編集、接客体験、広報活動などの“職業体験”も用意。すべて無料で参加でき、定期的なフィードバックによって内容の改善を重ねていきます。関わる若者たちが「評価される経験」「小さな成功体験」を積める場をつくり、将来的な就労や自立にもつながる仕組みです。